

6月25日(月)

主 の 日 を 守 る

聖書朗読 エレミヤ 17:19～27

いっしょに集まることをやめたりしないで、かえって励まし合い、かの日が近づいているのを見て、ますますそうしようではありませんか。

ヘブル 10:25

十戒では、安息日を厳格に守ることが定められています。いかなる仕事も食事をすることもせず、家畜さえ休ませなければなりません。エレミヤの時代の人々は、神様のこうしたおきてから離れてしまったために、主のみことばを軽んじていると、主に厳しく戒められました。

神はご自身の御力を振りかざしたいが為におきてを定めておられるのではありません。イエス様は「安息日は人の為に定められた」と言っておられます。安息日を守ることはイスラエルの民にとって望ましいことだったのです。週に1度休息することで私たちもリフレッシュするでしょう。すべての業をやめて、神様のみことばを思いめぐらし、神様の素晴らしさを考えることで、価値の測れない恵みに与ることが出来ます。

私たちに求められる最も大切なこと、それは、神様を称えイエス様の贖いを覚えることです。礼拝に集うのはそのためです。礼拝に集う人の中には、説教や讃美歌に満足できず、礼拝は自己啓発にならないと言う人もいます。

あなたも礼拝を自己啓発の場だと考えていますか。そうであれば、まず知恵と導きを祈ってみてください。次回出席する礼拝では、自分が元気づけられることを期待するのではなく、寂しそうに見える人を探して、彼らを自分から励ましてみてください。他の人に元気を与えるよう行動してみましょう。そうすることで、日曜毎の礼拝であなたも高められ、新しくされるでしょう。間違いありません。

讃美歌 55

祈り 親愛なる主よ。あなた様をもっと心から褒め称えさせてください。あなたの道は、全き平和をもたらすものであると信じさせてください。そして、他の人があなた様の恵みを見出すことができるよう私を用いてください。

イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

ロバート・ブレア
アイオワ州 クレゴーン

今日の力

2018年6月25日～7月1日

翻訳 藤岡伸子

編集 岩田欣三

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

御茶の水キリストの教会

6月26日(火)

口 が 滑 る

聖書朗読 マラキ 2：4～7

わたしのくちびるに、賛美がわきあふれるようにしてください。

詩篇 119：171

金管楽器の音は、くちびるの動きで決まります。私はトロンボーンの生徒に音の出し方を教えるとき、音をうまく出すためのくちびるの形の作り方を重点的に教えます。生徒たちは次第にくちびるの形をうまく作って美しい音を出せるようになりますが、最初はくちびるが滑って、その音は聞くに堪えないと言わざるを得ないほどです。

旧約聖書には、ユダヤ人の間では、くちびるは、語ろうとすることばが口から出るのを制止する最後の手段とされていたとあります。彼らは「偽りのくちびる、欺きの舌から救い出し（詩篇120：2）」、「軽率なことを口にせず（詩篇106：33）」、また、「自分たちのくちびるが神を賛美するように（詩篇63：3）」と祈っていました。

トロンボーンの生徒たちは、くちびるが滑らないよう練習をします。けれども、私たちのくちびるから出る言葉は他の人と共有するものだという事を覚え、自分の発する音がどのようなものであるかを意識しながら、良いことば、親切で人の為になることばを語れるよう練習することができでしょう。

私たちのくちびるを、神様を褒め称え他の人に親切なことばを語るものとしていただきましょう。

讃美歌 339

祈り 親愛なる主よ。私たちのくちびるで、あなた様の御名を称えさせてください。私たちのくちびるを守って、つい口が滑ってしまうことがないようしてください。

イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

ロバート・P・ミュレン

テキサス州 ノースリッチランドヒルズ

6月27日(水)

塩：永遠への道

聖書朗読 マタイ 5：1～16

あなたがたのことばが、いつも親切で、塩味のきいたものであるようにしなさい。そうすれば、ひとりひとりに対する答え方がわかります。 コロサイ 4：6

ヒマラヤのピンク岩塩のボトルに「250万年前の海底に堆積した最も純粋な自然塩」と書かれていましたが、その底には「賞味期限2018年」とありました。これを見た主人は、この記載は矛盾していると皮肉を言って面白がっていました。

ユダヤのラビたちは、塩を、永遠、不変で揺らぐことのない神のご性質を表わすものと捉えていました。神様は変わることがありません。当時あらゆる捧げものに求められていた塩は、ユダヤ人が日々のあらゆる側面で、創造主に身を捧げる生き方をする事を覚えさせるものでした。聖書は、これらの捧げ物を神への「香しい香り」として記しています。

聖書に描かれている時代には、塩は、金と同じくらい価値があり、支払いのひとつの形態として用いられていました。男性は塩の袋を持ち歩き、取引が成立したときには、塩をひとつまみ袋から出して相手の袋に入れるという慣習がありましたが、これは相手に対する忠誠の証でした。こうした背景に照らすと、汚れた塩を別にすること、「塩気を失った塩」とはどのようなことを意味するのでしょうか。考えてみてください。

パウロは、ことばを塩味のきいたものとなるようにしなさいと言っています。何故でしょう。ことばは、永遠の結果をもたらすものであり、神様に喜んでいただく香りとするのできるものだからです。塩は義の道具として用いられるとき、霊的な塩となって私たちのことばに価値を与えます。苦々しい思いを抱く代わりに、希望と励ましのことばを語って、芳しい香りを豊かにしていきましょう。

讃美歌 12

祈り 聖なるお父様、私の口から出ることばと心に抱く思いを、あなた様に受け入れられるものとしてください。私の語ることばが、あなた様と、あなた様の義とご性質を表すものとしてください。

イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

バージ・A・ナイマン

ネブラスカ州 ヨーク

6月28日（木）

驚 く ば か り の 愛

聖書朗読 マタイ 5：43～48

しかし、わたしはあなたがたに言います。自分の敵を愛し、迫害する者のために祈りなさい。 マタイ 5：44～45

私は家族を愛しています。とても深く愛しているので、彼らを危険や悪に近づけたくないと思います。私自身が誰かに何か嫌なことをされても、その人を赦し、そのことを忘れることができますが、私の愛する家族が誰かにないがしろにされたら、必死に彼らを守ろうとします。家族を深く愛するがゆえに、彼らの痛みは私自身の痛みと感じます。愛する家族が平穏無事でいられることを切に願っています。

イエス様の私たちすべてに対する御愛ほどの愛は他にありません。十字架上でイエス様は盗人とご自身を殺した人々をも赦されました。私たち一人ひとりに対するその御愛は、夫、両親、兄弟、姉妹に対する私の愛などとは比べものにならず、私たちの示す愛より遥かに深いのです。イエス様は、あなたが日々通りですれ違うすべての人を、私たちが子どもを愛する愛情以上の愛で愛しておられます。

今日、お店のレジに並ぶことがあったら、あるいは、信号待ちをすることがあったら、隣の人を見て、その人たちにも神の驚くばかりの測り知れない御愛が注がれているのだということに、思いを巡らしてみてください。

讃美歌 342

祈り 私たちの造り主なる聖なる神様。今日もあなた様の御愛、私たちだけでなくあなた様の造られたすべての者に注がれている御愛を覚えさせてください。そして、私たちの周囲の人たちにその御愛を広げていくことが出来るよう、私たちに力をお与えください。

イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

マーヤン・バスキン

テキサス州 サンアントニオ

6月29日（金）

す べ て ご 存 知 の 神

聖書朗読 マタイ 6：7～8 1列王記 18：25～29

彼らのまねをしてはいけません。あなたがたの父なる神は、あなたがたがお願いする先に、あなたがたに必要なものを知っておられるからです。 マタイ 6：8

もし神様が私たちの必要をご存知ないとしたら、私たちは祈る前に、どのように何を神様に語るべきか、あるいは、語るべきか否かをよく考えなければならないでしょう。けれども神様は、私たちが口にする前に必要はすべてご存知です。ですから神様の注意を引くために祈りのことばを繰り返す必要はありません。かつてバアルを崇拜する者たちが、朝から晩まで「バアルよ、お聞きください」と繰り返し祈っていたのとは違います。私たちの神様は一度で聞いてくださいます。けれどもそれは、何度も祈る必要がないということではなく、同じ言葉を繰り返すことで奇跡的に祈りが聞かれるといった祈りの捉え方への注意を促すものです。

私たちは神様に求め続ける必要がありますが、神様は私たちが求める前からその必要を知っておられることを覚えて、正直な心と切なる願いをもって祈ることが大切です。イエス様は、祈りの長さを決められることはありません。大切なのは、祈りは見せびらかすものではなく、一人ひとりの魂と神様との個人的な交わりであることを覚えて、真心こめて祈ることだとしておられます。

ルターは「良く祈ることは良く学ぶこと」と言っています。良く祈ることは良く生きること、良く働くことは良く耐えることです。祈りは霊的な成功の鍵なのです。

讃美歌 308

祈り 父よ。私たちたちの歩む道が明るくても暗くても、嵐の日も輝く日も、私たちの魂に揺るがない希望を与え、絶えず祈ることが出来るよう助けてください。

イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

ヘレン・M・ヤング 1960

6月30日 (土)

よ り 大 切 な も の

聖書朗読 マタイ 6:28~34

神の国とその義とをまず第一に求めなさい。

マタイ 6:33

第51回スーパーボウル(Super Bowl LI)は、歴史に残るフットボウルの試合でした。フットボウルファン、特にファルコンとペイトリオッツファンにとっては、ハラハラさせられるものだったでしょう。第3クォーターまでは誰もがファルコンの勝利を確信していましたが、「諦めるな」という言葉に本当に意味があるとしたら、2017年2月5日、日曜夜のこの試合は、まさにそれを証明するものとなりました。

その試合には、マーク・ウォルバーグという俳優が観戦に来ていたのですが、ゲームの流れがペイトリオッツに変わる前にスタジアムを去ってしまいました。多くの人は、彼は熱狂的なペイトリオッツファンなので、負け試合だと思って帰ったのだらうと思いました。けれども後に、突然立ち去った事について問われたところ、彼は「一番下の息子の具合が悪く、早く帰らなければならなかった。本当はスタジアムに残りたかったのだが、やはり家族が何より第一。ペイトリオッツを愛していないということではない。どうか信じて欲しい。」と答えていました。

大切なものには優先順位があるでしょう。クリスチャンは、神様第一、次に家族、第三に他者、そして自分は最後だと言いますが、果たして私たちは実際そのように行動にしていると言えるでしょうか。今日、改めて優先すべきものを選びましょう。

讃美歌 4

祈 り 親愛なるお父様。あなた様の御愛と私たちのための贖いを感謝します。あなた様の義と国を心から求め、大切なものを大切なものとしていく事ができるようにしてください。

イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

セラーズ・S・クレインジュニア
テネシー州 ヘンダーソンビル

7月1日(日)

変 わ る こ と へ の 恐 れ

聖書朗読 マタイ 8:28~34

言われた。「まことに、あなたがたに告げます。あなたがたも悔い改めて子どもたちのようにならない限り、決して天の御国には入れません。」

マタイ 18:3

私たちの多くは慣れたものを好み、生活は普段と変わらず急な変化がないことを望み、また、この世の中も変わらないことを願う傾向にあります。けれども、そのような私たちの前に神は現れ、この世を覆されるのです。

400年もの間奴隷であったイスラエルの民は、その状況が一転し自由の道が開かれ、驚くほど様々な可能性が与えられました。けれども、それにも関わらず、彼らはむしろ奴隷であることを望みました。というのは、奴隷であったときには、彼らは自分たちが何をなすべきか分かっていたのですが、自由によって与えられた様々な選択肢は、どう選んだらよいか分からなかったからです。

悪霊にとりつかれた2人の男は、コミュニティの一部で、誰もがこの二人を知り、彼らとの関わり方を心得ていました。彼らは街角に立っているホームレスの人たちと同じように、景色の一部のように見られていました。神はここにも現れました。

私たちがもしそこに居たら、正気に戻った彼らとどう接したらよいだろう、彼らはコミュニティにどう適応していくのだろう、あの豚の代金は誰が支払うのだろうなどと考えたでしょう。

クリスチャンの歩みは困難なことがあります。それはそこに神の御業が現されるからです。神は、憎しみが愛に、偽りが真理に、汚れたものが清いものに、そして恐れが信仰に変えられることを求めておられます。恐れが和らぎ神様への信頼が増し、私たちがもっと主に似た者へと変えられて行きますように。

讃美歌 452

祈 り 父よ。私は慣れたものを好み、マンネリに身を委ね、今の心地良さについ安住してしまいがちです。どうか私に変わる強さを与え、もっとあなた様の御子に似た者となることが出来るようにしてください。

イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

ペニー・ニコラス
テキサス州 オデッサ